

# 耳原遺跡

所在地 茨木市耳原一丁目249-2他

調査原因 共同住宅建設工事

調査期間 平成17年4月25日～平成17年6月1日

調査面積 375m<sup>2</sup>

調査担当 中東 正之

## 調査結果

耳原遺跡は、茨木川と安威川に挟まれた、舌状台地の縁辺部、耳原一丁目から二丁目にかけて、微高地から平地部へとゆるやかに推移する地域に広がっている。以前から遺物の散布地として知られていたが、昭和37年の名神高速道路建設に際して小規模な発掘調査が実施され、多数の弥生土器片が出土している。昭和53年には耳原小学校新設に伴う本格的な発掘調査が実施されたが、わずかな弥生土器等が出土したにとどまった。遺跡の様相が判明するのは、昭和54年、微高地の東端に位置する宅地開発に伴う発掘調査によってである。

この調査で、15基を数える縄文時代晚期の深鉢棺墓、弥生時代前期の竪穴住居跡や土坑墓などが発見され、注目されるに至った。さらに同地区では、昭和62年頃からマンション建設に伴う開発などが進み、それに伴う発掘調査も平成8年までに6件以上が実施されている。

報告済み調査例として、平成5年度および8年度調査地がある。

平成5年度調査地は、当地の北側に位置し、弥生時代前期末の方形周溝墓、土坑墓、溝、土坑などが検出された。

平成8年度調査地(第図)は、当地の東側に隣接する調査地である。弥生時代前期末から中期前半の落込み、上坑、柱穴などが検出されているが、昭和54年調査地の縄文時代晚期の墓域とは、谷状地形により断絶されていることが判明している。

また、平成7年から9年にかけて実施された名神高速道路拡幅工事に伴う発掘調査では、弥生時代中期や奈良時代の建物跡など多くの遺構・遺物が検出されている。

基本層序は、断面図(第図)に示す7層とした。上層から表土・耕土、旧耕土、床土、整地土(第1～4層0.15～0.5m)、黒褐色礫混粘質土(第5層包含層0.2～0.5m)、第7層から分化(土壤化)しつつある暗褐色礫混土(第6層)、明黄褐色礫混土(第7層地山層)となる。現状は水田面であったが、地山面は北から南へ緩やかに下る傾斜地であるため、北端部では床土層直下が包含層



位置図

となる。造構検出は、第7層上面(標高21.1~21.85m)で実施した。

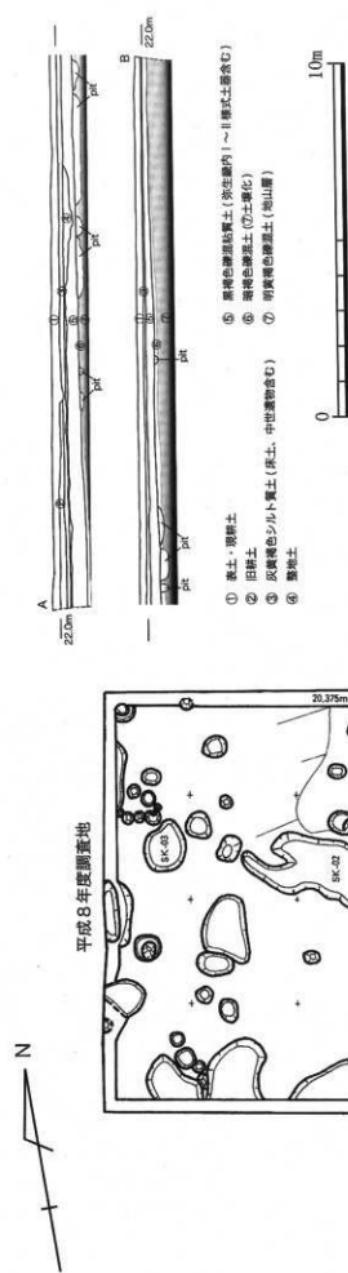
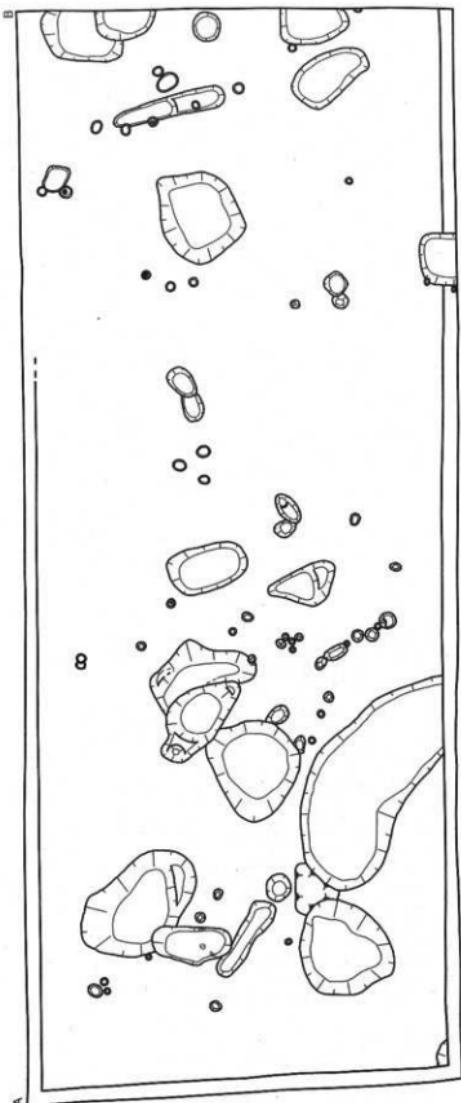
検出遺構は、風倒木痕跡、土坑、ピットである。SK-1、2以外は、遺物はほとんど出土していない。SK-1は、長軸1.3m、短軸1m、深さ0.15mを測る土坑である。埋土は黒褐色粘質土で、弥生時代前期末頃の壺底部片などが出土した。SK-2は、長軸約7m、短軸2.8m、深さ0.4mを測る大型の土坑である。埋土は黒褐色礫混土層で弥生土器細片が出土した。他の土坑については、断面皿状の浅いものが多く、遺物が出土しないため、その性格は判然としなかった。ピット類は、掘建柱建物などを形成する並びは確認できなかった。風倒木痕跡は、独特の堀形と堆積状況からそれと判断した。遺物は全く出土しなかった。

遺物は、第5層包含層出土の弥生土器(前期後半から中期前半頃)が大半を占める。包含層には、上層の混入と判断される須恵器・土師器をのぞいても、若干の土師質の細片は認められるため、当該時期において整地されている可能性がある。包含層からは、他にサヌカイト片などが出土しているが、縄文土器については確認できなかった。弥生土器は、とくに調査区南部の第6層直上面において目立つ傾向があり、これの由来となる包含層は、第5層ではなく、削平により欠如している可能性がある。整地上・床土からは、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器など、古墳時代から中世に至る土器片が出土した。総じて摩滅した細片となっている。遺物総量はコンテナパッド2箱である。

本調査地では、東隣の平成8年度調査地と同様、縄文時代と断定される遺構は検出されず、当該時期の墓域とは外れる地区であったと判断される。また、弥生時代の遺構も、その性格が確かなものは確認されなかった。



第42図 耳原遺跡遺構面全景



第43図 耳原遺跡調査地平面図(上)・断面図(下右)・平成8年度調査地(下左)

## 中条小学校遺跡

所在地 茨木市東中条町398-4他

調査原因 立体駐車場建設事業

調査期間 平成17年5月9日～平成17年5月27日

調査面積 188m<sup>2</sup>

調査担当 宮脇 薫

### 調査結果

当該地は、元茨木川の右岸に位置しており、対岸の左岸には新庄遺跡が立地している。同地は中条小学校遺跡の東北端に隣接していることから、共同住宅が計画されたので、平成17年3月15日に試掘調査を実施したところ、計画地の西端部の現地表下2.2～2.35mから約5cmの包含層が確認された。

調査は立体駐車場が2基設置されることから、Aトレチ、Bトレチの調査区を設定し、発掘調査を実施した。

調査区の層位は、上層から盛土が約1.6～8m、耕土が約25～35cm、床土約15～25cm、中世～古墳時代の須恵器及び土師器を含む茶褐色土の包含層が5cm、遺構検出面は淡黄色粘土である。

検出された遺構は、溝、柱穴、土坑である。

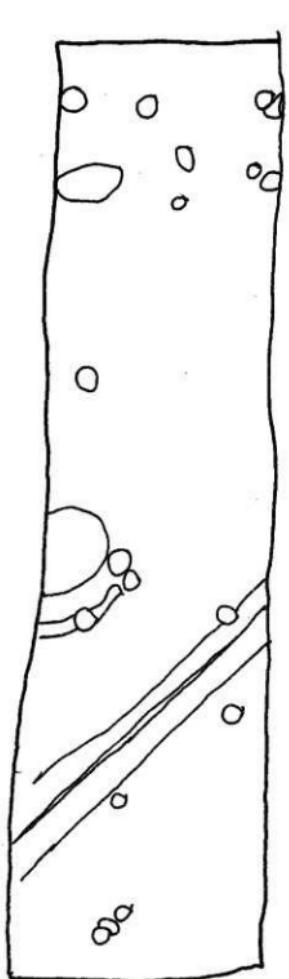
溝は4条検出された。調査区の北東から南西へと流动していた状態で検出された。両調査区において片側の岸を共有している。Bトレチでは1条が途切れている。深さは4～12cmである。出土遺物は少量の土師器の細片が出土しているが時期は特定できない。

柱穴は、径が25cmから35cmの円形である。

この開発地域は、試掘調査の結果から中条小学校遺跡の北東部に位置しており、東地域は旧茨木川の氾濫原の様相を示していて、当該地においても遺構が希薄であり、包含層も薄く殆ど堆積していない。従って遺跡は西南方向に広がっているものと考えられる。

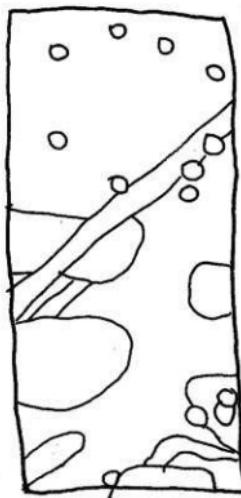


位置図



Aトレンチ造構図

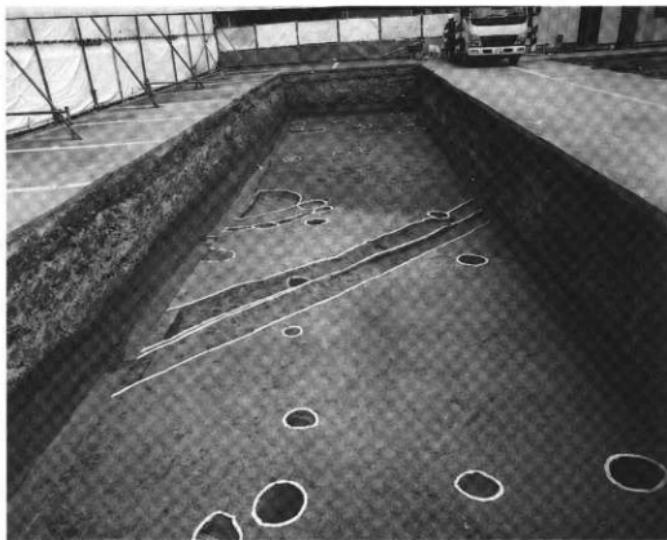
N  
↑  
4



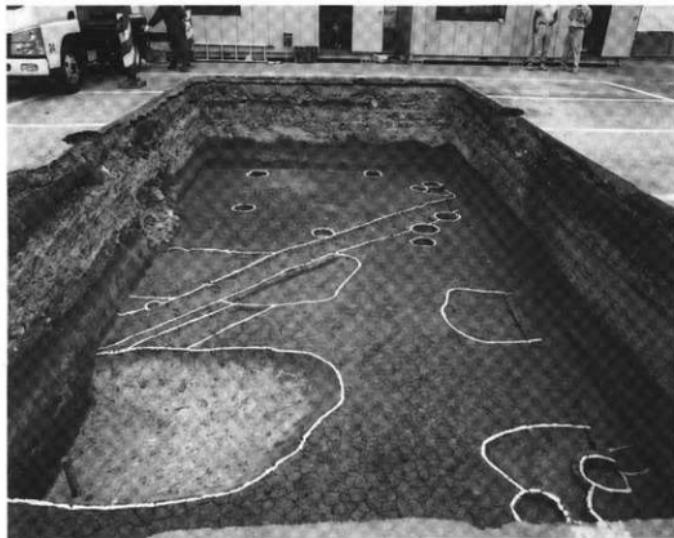
Bトレンチ造構図

第44図 中条小学校遺跡 遺構図

0 5m



A トレンチ図



B トレンチ図

第45図 中条小学校遺跡 発掘状況

# 東奈良遺跡

所在地 茨木市東奈良三丁目130、131

調査原因 共同住宅建設工事

調査期間 平成17年7月19日～平成17年8月10日

調査面積 約185m<sup>2</sup>

調査担当 中東 正之

## 調査結果

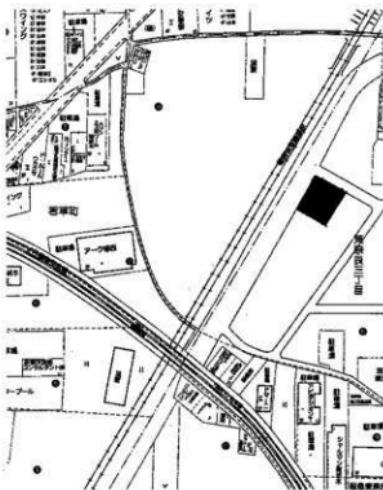
東奈良遺跡は、千里丘陵から東方向に流れる小河川等によって形成された扇状地性平坦面と、遺跡の東側を流れる元茨木川が形成した沖積面に成立している。昭和46年、小川水路の改修工事に際して遺跡が発見されて以来、多くの発掘調査が実施され、弥生時代の環濠集落をはじめとする、弥生時代前期から中世に至る複合遺跡として、南北約1.2km、東西約1kmの包蔵範囲が周知されている。

本調査地は、東奈良二・三丁目、若草町にまたがる、東奈良土地区画整理地区内に位置する。同地区は、環濠集落の中心部から北東域をその範囲に捉えており、平成11年度に実施された区画道路部分の発掘調査、そしてその後の喚地部分などの発掘調査で、弥生時代前期の環濠5～6条と同中期の環濠2～3条が廻る集落の概要が明らかとなった。

当地は、平成11年度区画道路調査で小銅鐸の出土した第1調査区SD-5に続く溝など、3条の環濠に連なる位置にあるため、発掘調査を実施した。

基本層序は、東壁断面(第46図)の第1～第9層とした。先の区画整理で厚く盛土がなされており、現地表面は標高8.45mを測る。古代～中世包含層(第4層)下、標高7m付近には、堅固に叩き締められた整地層(第5層)がある。以下、弥生時代から古墳時代前期の整地層もしくは包含層(第6層～8層)が堆積し、地山層(第9層)に至る。

検出遺構は、標高6.7m付近を測る地山層上面を検出面として、環濠3条、溝10条、井戸2基、土壙6基、ピット約410口を精査した。時期は、弥生時代前期および弥生時代前期後半～同中期初頭を主体とするもので、他に弥生時代中期から後期、弥生時代後期から古墳時代前期初頭、古墳時代から奈良時代、中・近世のものがある。当地では、工期の都合により、すべて地山層(第9層)上面で検出した。また、弥生時代前期の遺構の一部と、環濠であるSD-8、SD-9については、完掘することはできなかった。以下、主要な遺構について概説する。



位置図

SD-01は、平成11年度調査第1調査区SD-5、5'（当地東側）および第8調査区SD-Ⅲ（当地西側）から続く弥生時代中期の環濠である。北肩部は調査区外に至るため、全容は不明であるが、二段の堀形にやや平坦な溝底を呈した4m程の溝幅と推測され、深さ1.2mを測る。埋土は、集落の内側から（南側）から流れ込んだとみられる堆積層（第11～13層）と、SD-5'に相当するとみられる堆積層（第14～21層）を検出した。

SD-08は、平成11年度調査第1調査区SD-4、第8調査区SD-Ⅳから続く弥生時代前期の環濠で、同時期に開削された環濠としては最外縁を廻るものである。東壁沿いのトレンチ掘削による確認にとどまったが、溝幅6m前後、深さ1.4mを測る大きな溝で、断面形は逆台形を呈する。埋土は14層ほどに分かれるが、前期の環濠でありながら、中～下層において弥生時代中期（IV様式）の遺物が多くみられ、当該時期に溝が大きく浚われた事実を示す。また、南肩部では、テラス状構造と推測される埋土（第36、37層）と重複しており、その上部には、土盛り状の構築土（第34層）の一部が残存していた。

SD-09は、平成11年度調査第1調査区SD-4'、第8調査区SD-Vから続く、弥生時代前期の比較的小規模な環濠である。SD-08の内側に平行して廻る同時期のものであり、本調査地では、北肩のラインを精査するにとどまった。

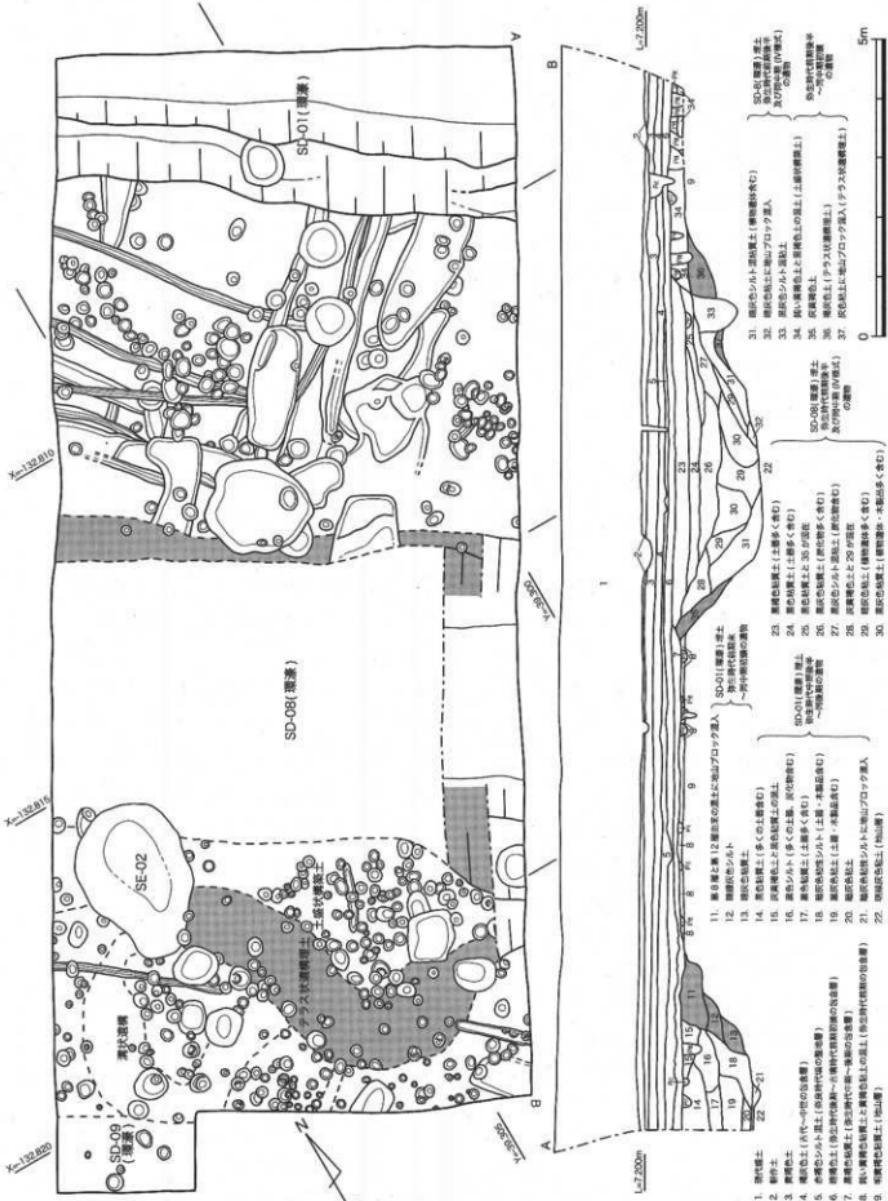
SE-02は、SD-08南肩部に位置する古墳時代前期初頭の井戸である。上面楕円形を呈し、長径2.7m、短径1.8m、深さ0.8mを測る。埋土は5層に分かれ、中～下層より、完形品を含む庄内式土器が出土した。

出土遺物は、壺類、瓶、鉢、高杯、器台などの弥生土器が大半を占める。その時期は、前期後半から中期初頭が最も多く、次いで中期後半が主体となる。これらは環濠の出土遺物がほとんどで、石製品や木製品、動植物遺体も出土している。他には、庄内並行期の土器類、古墳時代から奈良時代の土師器や須恵器などがある。

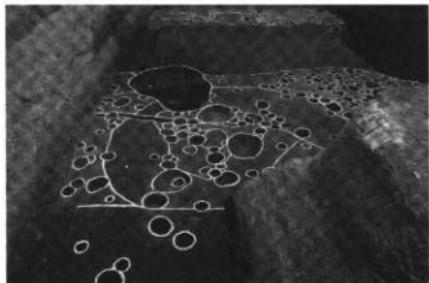
本調査地は、環濠を含めて限定的な調査となった。とくに新たな知見は得られず、隣接地の調査結果を追認したかたちとなった。東奈良遺跡には、弥生時代前期の段階で、本調査地のSD-08を含め、6条もの環濠が存在していた。開削時期に差はあるが、いずれも居住域の拡大に伴い、早い段階から埋没する傾向が確認されている。また、SD-08ではその内側に（集落側）には土盛り状の構築土が確認されている。平成11年度調査においても、当該環濠で同様の痕跡が検出されており、当初は土塁等の防御的な設備が存在したことも想定される。次に環濠が開削され、あるいは埋没した環濠の一部が浚われて機能を回復するのは、空白期において、弥生時代中期の後半となる。この、東奈良遺跡における空白期には、該当する遺構・遺物が大幅に減少する傾向が確認されている。

#### 参考

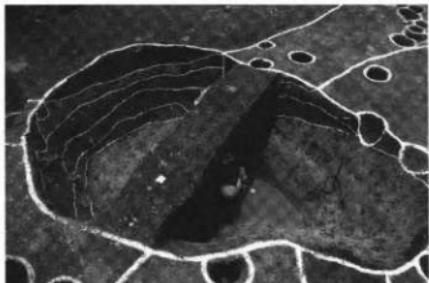
茨木市教育委員会「東奈良上地区画整理事業に伴う発掘調査概要報告」平成15年



第46図 東奈良遺跡構面平面図及び東側壁面土層図



遺構面南部（南から SD-09、SE-02、SD-08）



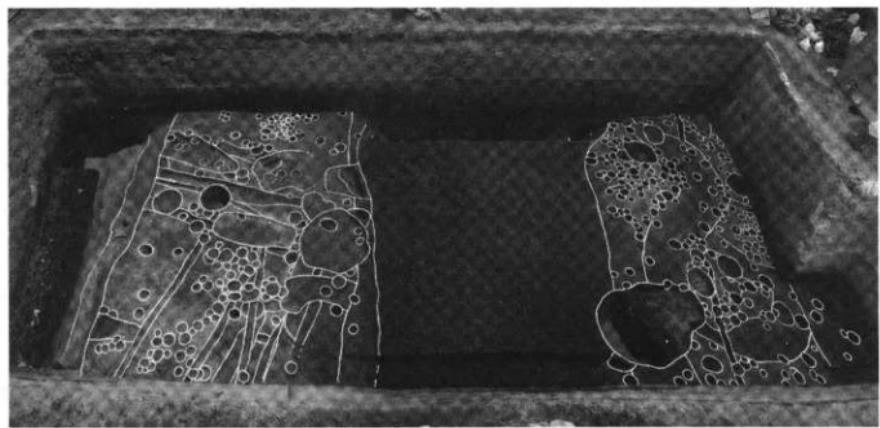
SE-02 完掘状況（南西から）



SD-08 東壁トレンチ（南西から）



SD-01 完掘状況（東から）



遺構面全景（西から）

第47図 東奈良遺跡遺構面検出状況

報告書抄録

ふりがな 書名	おおさかみいばらきしはいせいじゅうななわんごはくつちょうさがいほう 大阪府茨木市平成17年度発掘調査概報								
巻次	平成17年度(2005年度)								
シリーズ名									
シリーズ書									
編著者名	宮脇薫・中東正之・黒須靖之・宮本賛治								
編集機関	茨木市教育委員会								
所在地	567-8505 大阪府茨木市駅前二丁目8番13号								
発行年月日	西暦2006年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因			
春日遺跡	春日一丁目	27211	60	34°48'59"	135°33'55"	200532~ 200315	119	共同住宅	
春日遺跡	春口三丁目	27211	60	34°49'13"	135°33'56"	2005127~ 200523	36	共同住宅	
耳原遺跡	耳原二丁目	27211	31	34°50'11"	135°34'21"	200541~ 2005614	1,071	事務所倉庫	
中条小学校 遺跡	駅前二丁目	27211	52	34°48'44"	135°34'9"	2005419~ 200563	512	事務所倉庫	
耳原遺跡	耳原三丁目	27211	31	34°50'29"	135°33'41"	2005426~ 2005721	1,400	土壤改良	
總持寺遺跡	三島丘二丁目	27211	32	34°49'48"	135°35'6"	200559~ 2005629	681	宅地造成	
耳原遺跡	耳原一丁目	27211	31	34°50'14"	135°33'52"	2005425~ 200561	375	共同住宅	
中条小学校遺跡	東中条町	27211	52	34°48'40"	135°34'17"	200559~ 2005527	188	共同住宅	
東奈良遺跡	東奈良三丁目	27211	55	34°48'17"	135°34'3"	2005719~ 2005810	210	共同住宅	
所収遺跡名	種別	土時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
春口遺跡	集落	古墳時代 奈良時代	土塁 柱穴 耕作溝	石器 土師器 須恵器 陶磁器					
春口遺跡	集落	古墳時代 平安時代	柱穴 溝 井戸 上塙	土師器 須恵器 陶磁器	春口遺跡の包蔵範囲の拡大				
耳原遺跡	集落	縄文時代 平安時代	輪溝 柱穴 土塙	石器 縄文土器 土師器 須恵器 陶磁器	耳原遺跡の包蔵範囲の拡大				
中条小学校遺跡	集落	中世	井戸 溝 柱穴						
耳原遺跡	集落	中世 近世	柱穴 溝 ビット 円形周溝 上塙 上取坑	土師器 須恵器 陶磁器					
總持寺遺跡	集落	飛鳥時代 奈良時代	掘立建物群 耕作溝	石器 土師器 須恵器					
耳原遺跡	集落	弥生時代	風削木痕跡 土塙ビット	弥生土器 土師器 須恵器					
中条小学校遺跡	集落	古墳	溝 柱穴	土師器 須恵器					
東奈良遺跡	集落	弥生古墳	環壕 溝 井戸 柱穴 大型土塙等	弥生土器 土師器 須恵器					

**平成17年度発掘調査概報**

発行日 平成18年3月31日

発 行 茨木市教育委員会

印刷所 株式会社 トウユー